



1996.9.1  
第101号

編集・発行  
福島県教育庁  
会津教育事務所  
加藤 征 男  
編集協力  
福 津 協 力 沼 会  
北 会 津 協 力 沼 会  
地 教 委 津 協 力 沼 会  
小 中 学 校 長

# 扉を開く

福島県教育庁会津教育事務所長

## 加藤 征 男



国際化、情報化、高齢化、少子化、科学の進歩、価値の多様化などの変化は実にめざましく、かつて、十年スパンであった時の変化の感覚が、今や五年、いや、三年にも感じられます。こんな中において、「あいづね」の発行が百回を重ねることは、喜びに堪えません。これまでに、創刊の扉を開き、その時々にかかわってこられた皆様方のお心と御労苦に敬意と感謝の意を表する次第であります。この間、会津の教育が常に児童・生徒に正対し、彼らの幸せ、健全な成長や自己実現を願っ

て実践され、眠々と受け継がれてきた歴史の積み重ねの大きさを思う時、まさに、荘厳にして、力強く、そして美しい。会津嶺、そのものを感じ、あいづね、継続の意義の大きさをあらためて意識しております。

県教育委員会では、学校教育上の最重要課題として、基礎学力の向上、いじめ・登校拒否等の生徒指導の充実及び教職員の資質向上を取り上げ各学校の実態に基づき、創意工夫を凝らした実践をしていただいているところであります。

最近、第十五期中教育審議のまとめ「二十一世紀を展望したわが国の教育のあり方」、児童生徒の問題行動等に関する調査研究協力者会議による

児童生徒のいじめ等に関するアンケート調査、そして、国及び県のまとめによる「人口動態統計（概数）傾向」等の提言や調査結果が相次いで発表されました。それらを読むと、今後、社会の状況はますます激変し、そこに生きる人間はその都度、より困難な、より多くの課題解決を迫られ、そのための判断力、生きる知恵、心身の逞しき、倫理観、自他の存在と相違を尊重し、自然や環境を大切に考える心と行動、他との連携などが一層求められることになると思われまます。

今、私達の目の前にいる児童生徒を「二十一世紀からの留学生」であると考えた時、私たちは、彼ら一人ひとりに留学生としての心と、体と、

力を自ら獲得させ、やがて、「未来という国」に返してやらねばなりません。まだ見ぬ国で生き抜く人間を育てるわけですから、相応な覚悟が必要でしょう。

でも、私達教師は、自ら進んで、教育という世界に身を置くことを選びました。どんなに難しくても、いかに辛かろうとも、持てる力を少しでも向上させ、遅しく、豊かな人間を志向し、「二十一世紀の扉を開く好機に出会えた」という気概を持ちたいものです。

幸いにも、彼らが見せてくれる日々の大きな成長と驚くほどの可能性は、私達にとってこの上ない励みであり、声援であり、応援であると思えるのですが、いかがでしょうか。

会津嶺の園をさ速み逢はな  
はは俣びにせもと紐結ばさね  
(万葉集 卷十四)

陸奥の国歌として新編会津風土記 卷之一にも会津嶺の語が既に見えているようである。

先史の昔から今日まで、磐梯山は偉大な自然の具現者として時に畏敬の眼差しをもって、また慈愛あふれる師父としてこの地に住む者や仰ぎ見る人々に無言の教えを垂れてきたのである。

いわば、会津のシンボルとしての位置を占めていたといえる。

磐梯の秀つ峯の雪のほの紅み 日の昏れなづむ春となり  
にし  
佐治 斗牛

会津の歌人が春のよるこびを磐梯の残雪に寄せた歌であるが、人生の哀歌をこの山に托して余りがない。

理想の灯を高く掲げ、実践の視野をさらに広げて、着実に前進する会津教育を願いなからこの名を広報紙の題字とした。

わが霊は野口英世を生みたりと 語るが如し磐梯山は  
土井 晩翠

(昭和四十四年八月十日)

「あいづね」  
覚え書き

(創刊号からの再掲)

広辞苑によると、  
「会津嶺」 会津磐梯山のこと。奥の細道に「左に会津嶺高く、右に岩城、相馬、三春の庄・・・」とあり、また会津富士ともいうと記されている。

## 百号達成記念特別寄稿

## 「あいづね」創刊の思い出



初代福岡県教育庁会津教育事務所長  
現 福岡女子短期大学名誉教授

## 古 関 富 男

会津教育事務所の広報紙、「あいづね」が創刊以来、百号を数えるに至ったことは、歴代の会津教育事務所勤務のかたがたのご努力の賜であり深く敬意を表する次第である。

会津教育事務所の発足は、昭和四十四年四月一日で、旧北会津、耶麻、両沼の三教育事務所が廃止され、会津教育事務所として統合されたのである。

私は、及ばずながらその初代所長を命ぜられたが、教育事務所の運営に当たっては、まず、職員が一日も早く融合し、一つの目標のもとに、職務の遂行に励めるように、物心両面の整備を図ること、第二に、市町村教委や、学校との関係を新たな立場から検討し、より緊密な連携を図ること、第三に、県教組の支部が管内に三つあるが、それへの対応を適切に行うことなどを初め、多くの課題があった。

そこで、連日会議を開き、速やかに態勢を整えるべく努めたのである。

その際、前記の第二の課題に応える方策の一つとして、広報紙の発行が浮かんできた。早速、市町村教委や校長会の協力を取りつけ、六月を目途に発行することになった。

まず、その題名が取り上げられ、各学校から公募してはとの案もあったが、その時間的余裕はなく、所内で考えることになり、提案されたのが「あいづね」であった。私は早速これに賛成し、佐竹虎男指導主事が、その解説を「あいづねおほえがき」としてまとめ、題字とカットは鶴城小学校の橋本照教諭にお願いした。さらに内容の項目を決定し、関係者に執筆を依頼し、六月十日発行にこぎつけることができたのである。

特に、折笠県教育長からいただいた「あいづねに寄せて

(一) 協調とは——」の玉稿は、無理を承知の締切日に間に合わせていただき、第一ページを飾ることができたのは大きな感激であった。

その他、「会津教育の真価発揮をめざして——統合の課題」「学校訪問のあり方」「本年指定研究学校紹介」などを中心に、市町村教委代表の桜木教育長の随想や、校長教頭のかたがたから「私の教育観」と題する原稿をいただくなど、

多彩な内容を短期間によくまとめたものと、当時の関係者に深く敬意を表したい。

私は、会津教育事務所の課題の一つは、その広い管内、つまり広い空間との闘いである。そのため話したものである。そのための施策についてはいろいろ工夫を要するが、その一つに広報紙の活用がある。「あいづね」の一層の充実を祈って止まない。

## 若き教師の皆さんへ



会津若松市教育委員会教育長

## 宗 像 精

期待と決意と信念を胸に、新しい年度のスタートを切った皆さんも、それぞれの実践の場で、様々な体験を重ねながら、一学期を無事終えられたこと、大変嬉しく思います。

二十一世紀の教育を拓く若き教師の皆さんへ、私の自戒もこめて、日頃思うことの一端をもって、エールとさせていただきます。

一つには、常に高いものの

位置からの視点をもってほしいこと。このことは言葉で言うほどたやすいことではありませんが、自ら低しとする態度は卑屈とは違い、あなたの度量を大きくこそすれ、決して狭めるものではない筈です。

ここからはじまるものの中にこそ現代の病のいくつかを治癒する方法が隠されているものと私は信じています。

二つには、「慎重と臆病」

「自信と傲慢」、「曖昧と優しさ」は、うわべは似ていても、これはまったく異なるものだということを学んでほしいということ。例えば、信念に裏打ちされた恬淡たる態度は人を動かしますが、傲岸不遜の態度は人を不愉快にするだけです。

そして三つには、先人や先達の智恵を謙虚に咀嚼する姿勢を持つことです。若いうちから「生意気」も「意気」の一つと肩をいからせるのも結構ですが、「才あって徳なし」しかも、その才は「猪口才」などといわれるようでは惜けありません。

桃や李は声高に自分をPRはしません。誰からも慕われ、自然に樹下に小径ができるものです。

能書きで人を屈伏させてもそれは本物ではありません。あなたの心の尖端が、時代や他者をどれだけ敏感に捉えていけるか、皆さんの価値の一つはそこから生まれてくるような気がします。

金科玉条、名言の氾濫する中で、大層な金言を弄することなく、静謐な笑顔で「出会い、教えられ、新しい自分が出ていく。それが私の人生です。」こう言える自分でありたいと思うこの頃です。

百号達成記念特別寄稿



OBのたわごと(思い出すままに)

元 福島県教育委員会教育長

佐藤 昌志

「あいづね」創刊一〇〇号のこと、時の流れの速さに驚くとともに、ここまで続けてこられたのは、関係諸先生のご努力の賜と感謝と敬意を表する次第です。

私が会津教育事務所にお世話になりましたのは、昭和四十六年四月から四十九年三月までの三年間。所長は、小林千葉両先生でしたが、一時期本庁で机を共にした仲でもあったせい、気軽に楽しく過ごさせていただきました。両先生とも今は亡く、只々ご冥福をお祈り申し上げるばかりです。

められ、校長会内部に不平不満が残ることとなっていることでした。私はその解決を図ることが当面の課題と考え校長会として人事を行うこと、同一都市間交流は認めないこと、十数年にわたる同一校勤務者は全員異動対象者とする

先的に都市及びその周辺校に配置することなどの方針を固め校長先生方の説得に当たりました。なかなか容易ではありませんが、結果として現在の県の異動方針の先鞭をつけることになりました。

たことでした。時折本庁から、情報を教えてくれても、との皮肉めいた言葉もありました。その問題は解決済みですというのが私の答えでした。

私が言いたいのは、教育事務所、学校など職場は異なるとしても、それぞれ解決しなければならぬ課題があるはず。その場合、その原因を把握し、慣例にとられず大局的な立場で積極的に対応することが必要でないか。そして先生方より信頼を得る人間になるためには、理屈や命令でなく一個の人間として愛と情をもって接することが必要でないかということ。案外人は情の下に住むものである。

思い出すまま、少々自慢話めいたたわごとを申し述べましたが何か一助になれば幸いです。



特別記事

【印象に残る記事再掲】

分校訪問記抄

(昭和五十三年三月)

「三条の子を訪ねて」

須佐 久男 指導主事

と背筋が寒くなる。「全員雪崩で遭難」そんな不安が胸をよぎる。「迷える子羊のために……」という教育長さんの言葉を思い出す。雪が、汗ばんだ頬に冷たい。

大沼郡金山町大字本名字三条。最近まで、自転車も通らない秘境として有名な部落である。本名から約四・五キロ。冬になると、雪のため交通困難となり、部落に行くだけで三時間はかかるといわれる。

そこに、十一月から四月いっぱい開設される金山町立本名小学校三条季節分校がある。雪崩の危険を冒して、去る二月十五日二条分校を訪ねた。午前四時二十分起床。五時十五分家を出る。(中略) 川口駅に着く。駅では分校の長谷川先生・若林係長さんが出迎えてくださった。教育委員会から教育長さんと同道し本名小の校長先生・事務の先生と共に、湯倉までジープで行く。湯倉でジープを降り、人の歩いた足跡を一步一步踏みしめて歩く。九時である。山の頂から谷底まで直線が走る。一歩踏みはずせば谷底である。一つの難所を越すとまた難所である。見上げるような大きな雪崩の跡がある。こんな雪崩に遭ったらと思う

雪に埋もれて点在する民家の中に、一目でわかる分校があった。そこで、たった一人の児童と住長(区長)さんが出迎えてくださった。間もなく、一対一で国語の授業がはじまる。たくさんのお客様にびっくりした様子もなく、実に落ち着いている。音読が非常にうまい。しかも正確に読みとっている。少しの誤りもない。話し合いに入ると、先生と子供のあいだからあたかなふんいきが流れる。おだやかな、きめ細かい指導、はきはきした子供の発言、初発の感想の豊かさ。たった一人の先生と、たった一人の子供とのすばらしいふれ合いに感動し、やっぱり無理をしてでも来てよかったと思う。

「私は、分校の子供のために、何か一つ得意なものを持たせてやりたい。」という長谷川先生の言葉。

「こんな秘境で、たった一人の子供のためにも日本の教育は浸透しているのだ。」という教育長さんの言葉が耳に残る。

## 特別寄稿

## 地域社会の国際的発展のための教育

## —「あいづね」にささげることば—



会津と  
いえば、  
藩校日新

会津大学学長 理学博士

國井利泰

館で知られる教育重視の地である。百数十年前まで会津にあった日新館は、学生千人に先生千人の対一個別対応教育を小中から大学まで一貫教育で行っていた。現代の高度グローバル社会は、教育の広がりや厚みの飛躍的増大を必要としている。「偏差値を指標として教育成果を図る量産品生産方式教育」は、「規格にかなった均質な人材確保」には向いていても、「多様化しつつある高度グローバル社会」の求める、「個性ある思考力を持った創造力豊かな多様な人材育成のための教育」には逆行する面が多い。小中教育時期は、

人格形成期でもあるので、自己の個性を発揮でき、同時に他人の個性も正當に評価できるような、のびのびした人格形成がなされる時期である。偏差値教育は、この時期に、特に大きな障害となる。典型

的例として、小中学校教育と大学院教育との関係が挙げられる。答えがあるかどうか分からない未知の問題に挑戦することを、研究等を通じて教育する創造性教育は、ほとんどが大学院において行われる。大学院の教育課程で、小中学校における偏差値教育の弊害が、日本人大学院生の「未知の世界」への挑戦意欲の不足という形で顕在化している。

偏差値による受験教育結果を入学試験で判定し、中、高校、大学入学選抜をする、分断された画一的教育方式の代わりに、日新館の一貫教育の良さを、現代に活かす必要がある。全世界的に急激に進む地域社会のグローバル化も、前向きに教育に活かすことが必要である。そこで会津大学では教育の国際化をも積極的に行うこととした。例えば、六割の一流教授陣を海外から迎え国際的水準の多様化・高度化教育実現を図っている。

英語によるコミュニケーション教育用コンピュータも新規に開発し、学生一人当たり授業時間中一台設置した。入学直後から、海外の高水準の大学、大学院に留学した以上の教育成果が得られる。第二の日新館として会津の地に生まれた会津大学は、コンピュータ教育用のワークステーションを同数設置した。これにより、日新館の対一個別対応教育の長所も採り入れた個性ある獨創性発展の教育法と教授法として、入学時から学生を開学時から開始した。個々の学生の要求をトップとし、それに応じて多様に授業を組み立てる「トップダウン教育」、学生の創意工夫を企業化する「ベンチャー教育」の研究開発も進めている。

会津大学は、目前の二十一世紀において最も発展性が高く、かつ全ての分野の発展の中核となると予想されるコン

ピュータ理工学にその専門を特化した。インターネットを初め、マルチメディア・コンピュータネットワークなど、高度社会を担う地域プロフェッショナル教育の本格的実現を達成するために、マルチメディア

アセンターを初めとする施設・設備を充実した。現在は、コンピュータ理工学大学院設立に向け全学を挙げ努力中である。このような夢多き会津大学の紹介を以て、「あいづね」にささげることばとする。

## 基礎学力向上のために

## ～自校プランの作成～

本県の最重要課題の一つである新しい学力観に立つ基礎学力の向上を目指して、各学校では自校プランの作成に取り組み始めている。

しかしながら一学期の計画訪問を通して、まだ確たる構想までには至っていない学校も多く見られるので、あらためて県教育委員会発行の「基礎学力プラン'96」を基に、「自校プラン」作成の手順を以下に示す。

## 計 画

- 1 基礎学力についての共通理解
  - (1) 学習指導要領、基礎学力向上プラン'95'96、基礎学力向上の手引き1、2等により共通理解を図る。
  - 2 学力等の実態把握
    - (1) 子供の発達段階、個人差、学力の定着の度合、学習体験、興味関心等を把握する。
  - 3 基礎学力を明確にした指導計画の見直しと改善
    - (1) 単元、題材で獲得すべき知識・理解、技能を明らかにする。
    - (2) 教材の系統性、発展性を考慮する。
    - (3) 評価計画を設定する。

(第5面に続く)

# 社会

## 【会津の文化財をもとに日本の歴史を探る授業】

会津若松市立日新小学校 教諭 川口文昭

大和朝廷の政治勢力の拡大をとらえさせるために、会津大塚山古墳出土の三角縁神獣鏡を教材として授業を行った。

会津大塚山古墳の形や大きさ、埋葬者の身分、造られた理由、出土品について学習した後、「同じ銅鏡が会津と岡山で見つかった。これからどんなことが考えられるだろうか。」という課題を設定した。

子供たちは、次のように予想した。

○ 渡来人が会津と岡山に

て同じ銅鏡を置いていった。  
○ 会津と岡山の豪族が戦いをしてどちらかが奪った。

○ 大和朝廷が何らかの印として会津と岡山の豪族に与えた。

これら三つの予想について資料集で調べたり話し合ったりした結果、大和朝廷が関わっていたのではないかと、という考えにいたった。

そして、県立博物館の見学

## わたしの実践

### 【主体的な読書態度の育成をめざして】

昭和村立昭和中学校 教諭 佐藤清美

「研究の見通し」「レポートのまとめ方」などの意図的な提示によって、教師が学習のモ



デルを示すことができただけではないかと考える。  
学習の充実感を述べた生徒の感想や、作成したレポートの中にある「課題意識をもって図書館に通い続ける」姿、「選択学習コースに示した書評の作品にとどまらず、さらに読書範囲を広げている」姿に、この指導のねらいであった主体的な読書態度の育成の確かな手こたえを感じている。



〈児童のノート例〉

### 展 開

#### 1 多様な学習の展開

- (1) 本時における基礎学力を明確にする。
- (2) 連続性を大切にしながら導入を工夫する。
- (3) 問題解決的、体験的活動を準備する。
- (4) 学習過程の展開や学習形態を工夫する。
- (5) 知識・理解、技能の定着を図る時間を確保する。

### 補 充

#### 1 基礎学力の定着を図るための補充活動

- (1) 練習活動の時間を確保する。
- (2) 個々の学習進度に応じた手だてを図る。
- (3) フィードバックや追指導に配慮する。
- (4) 学習成果を次の学習に活用できるように適切な評価をする。

### 深化・発展

#### 1 基礎学力向上に向けた深化・発展活動

- (1) 個に応じた朝や放課後、家庭での練習活動を計画する。
- (2) 基礎学力活用 の 場 面 を 設 定 する 。

このような手順で基礎学力向上自校プランが完成したら、授業での工夫・改善を図りながら実践、評価を行う。  
自校プランを基に、いかにしたら子供たちが確実な基礎学力を身につけていけるかを念頭に置いて、日常の地道な指導をしていくことが大切である。

(第4面より続き)

# 私の抱負

## この子らのために

西会津町立黒沢小学校 校長 目黒 美智子



八名の児童の声とは思えないほどの元気な声が校舎に響く。希望に満ちた十六の瞳に接し、この輝きを決して消してはならないと責任の重大さを改めて強く感じている。

温かい援助を借しまない保護者や地域の方々、真摯な態度の教師たち。児童にとって魅力ある学校は、教師や保護者にとっても魅力ある学校である。学校、家庭、地域社会の連携を図り、小規模校だからこそ可能な教育活動を展開し、学びがいのある楽しい学校づくりに努めたい。

## 笑いが学校を一つにする

河東町立河東中学校 教頭 川島 宏



アハハハという高らかな生徒たちの笑い声。時には、シーンと静まり返った教室からも、誰かおもしろい話でもしたのか、軽快な笑い声が響きます。

こちらは出入りの業者さんたち。「河中はいいですね。いつ来ても職員室が楽しそうで。」球技大会を終えての保護者との懇親会。グラスを交わし

肩をたたき合い、涙を流すほどの大笑い。これが私のモットーです。何事も、どうせやるなら、楽しく、明るく、おおらかに。そして、その雰囲気作りが私の仕事だと思っています。



## 生徒と共に

会津若松市立第四中学校 教諭 本田 麻子



先生と呼ばれるようになって早くも四か月が過ぎた。

慌ただしく過ぎていく一日一日を、無我夢中で過ごしている。生徒と共に学び、共に成長しようとするが、気がつくといつも早足で生徒を追い抜いている毎日である。

授業においては、自分の立

てた計画で頭がいっぱいで、生徒の反応に適切に対応できないことがたびたびある。生徒を置き去りにして授業がうまくいくわけがない。

生徒の目線に降りる余裕を持つことが、何よりも大事だと思う。あまり背伸びをせずゆとりを持って、いつも生徒と一歩一歩進んでいける自分でいられるよう努力したい。

## 教育事務所短信

### ◇学校事故防止について

管理課

- 一 交通事故防止に努める
- (一) 飲酒運転の絶無を期す
- (二) ゆとりある運転に心がけ、過労、イライラ運転による加害事故等の絶無を期す。
- (三) 方が一、事故が発生したら適切に対応する。
- 二 盗難被害、重要書類紛失等の事故防止に努める
- (一) 校内での現金等貴重品の保管に万全を期す。
- (二) 指導要録、その他重要書類の取り扱い、保管に万全を期す。

### ◇扶養手当について

総務課

扶養手当は、扶養親族の範囲内にある者で所得等の要件を満たす者に対して支給されますが、この要件について、認定後と状況が著しく変化しするための手当の遡及返納が最近増加しています。

そこで現在の状況を再確認していただく意味で以下に留意点を掲載します。

- 所得とは総収入額であり手取額や税法の所得ではない。
  - 別居の場合の子等で、特に学生アルバイトの把握。
  - 消滅は雇用契約の額が限度を越えると見込まれる時点。
- (給料受領後ではない)

## 「子育てセミナー」の実施について

生涯学習課

- 一 趣旨
 

今日の子育てをめぐる諸問題の解決を援助するため学習機会を提供するとともに、併せて個人及びグループにおける教育相談を行い家庭と地域の教育力の向上に努める。
- 二 期日
 

平成八年九月二十五日(水)
- 三 場所
 

喜多方市「喜多方プラザ」
- 四 主題
 

「親子の絆を深め、子供の健やかな成長と自立を援助する家庭教育」
- 五 対象
 

主として乳幼児の子供を持つ親、各学校等PTA会員、各種学級・団体関係者、市町村教育委員会及び公民館職員等
- 六 内容
 

基調講演、分科会による協議、巡回による家庭教育相談等、すばらしい講師の方々を招いての子育てセミナーです。多くの方々の参加をお待ちしています。

### 地域に学ぶ

## 町の小さな美術館

柳津町公民館 主事補 横田 理 絵

「百聞は一見にしかず」という言葉があります。この言葉は、美術鑑賞の基本中の基本とも言えます。本物の持つ迫力は、画集では決して伝わりません。

柳津町芸術文化資料室では「会津の冬」シリーズで知られる版画家、斎藤清画伯の作品を収集、展示しています。年四回の展示替えを行いながら、素描、コラグラフ、木版、墨画など様々な作品を、常時三

十五、四十点ほど展示しています。

斎藤画伯は明治四十年、会津坂下町で生まれました。四歳の頃、父親の仕事の都合で北海道に移り住み、そこで少年時代を過ごしました。成長し、看板店に勤めるようになると、絵の勉強の必要性を感じて上京します。

昭和七年、初めて出品した展覧会に入選。その後も「第一回サンパウロ・ビエンナーレ」などの様々な賞を受けます。昭和十二年には、離郷し

て以来初めて、会津産村の叔母の家を訪れます。これが斎藤画伯と会津との出会いであり、「会津の冬」シリーズの始まりでした。

その後も、大胆な平面構成と色面の対比が美しい、数多くの傑作を生み出し、平成七年には「文化功労賞」を受賞しました。

当室は、このように芸術的価値の高い斎藤作品に直に触れ、鑑賞できる場所として町民に親しまれています。

## 生徒指導充実のために

今日、いじめや登校拒否、非行等教育界が抱えている課題は多い。学校では、あらゆる教育活動を通してこれらの課題解決に取り組むとともに、どの子供たちも個性を發揮し、豊かな自己実現が図れるよう指導と支援に努めている。これらが十分に達成されるための根幹となるものは、「生徒指導の充実」である。では、ここで「生徒指導」を充実させるためのいくつかの「ポイント」を再確認してみたい。

### 生徒指導充実のポイント

一 子供を積極的に理解しようとしているか

三 いじめや学校不登居問題を解消しようとしているか

○ 子供を絶えず成長する存在としてとらえ、その時々によさに目を向けて理解しようとしているか。  
○ 過去にとらわれず、よいところは「よい」と認め、悪いところは「悪い」と指導しているか。

○ 子供たちの表情や言動などの微妙な変化に注意し、対策をとっているか。  
○ すべての子供に活躍の場を与えているか。  
○ 学校を挙げて実効性のある指導体制を確立しているか。

二 共感的な人間関係を育んでいるか

○ 子供のありのままの行動や考えなどを受け入れていくか。  
○ 成功や不成功などを次の成功への励ましとしているか。

共感的理解を中心にした意図的・計画的な生徒指導を推進することが大切である。子供たちが、「明日も学校へ行きたい」と思う学校・学級づくりをしなければならぬ。

## 生涯学習だより

### 家庭教育の充実

子供の望ましい人間形成を図るため、家庭や地域の教育力の一層の向上が求められています。そこで、市内各市町村

と公民館が連携して計画立案し実践してその充実に努めています。

(1) 実施期日と内容

- 河東第一小学校
- 六月「子育てを楽しむ」
- 七月「ダンス教室」
- 九月「研修視察」
- 十月「親の責任と自覚」
- 一月「グループ討議」
- 二月「町教育長講話」
- 河東第一小学校
- 六月「学校長講話」
- 七月「山田アラサ研修」
- 九月「高畑先生講話」

- 十月「婦人警官講話」
- 一月「町教育長講話」
- 河東第二小学校
- 六月「家庭教育講話」
- 六月「米国の家庭教育」
- 七月「研修視察」
- 十月「家庭教育講話」
- 十月「少年非行講話」
- 一月「家庭教育のめざすもの」

生涯学習時代を迎えて、さらに、社会教育と学校教育が融合して家庭教育の充実を図り、河東町のような実践が、今後多く見られるようになることが必要ではないでしょうか。

内容・講師の決定など、学校

研究指定校紹介

北塩原村立第一中学校

【武道指導(剣道)】の指定を受けて

平成七年度より、文部省の指定を受け「自ら学び、互いに認め合い、生き生きと活動をする生徒の育成(武道のよさを生かした指導を通して)を研究主題とし、次に掲げる三つの部会を設け、それぞれの視点のもとに研究を進めている。

- 一 剣道授業研究部
  - 剣道の楽しさを味わわせ教材、教具等の工夫
- 二 生き方指導部
  - 武道(剣道)に期待する心や態度について補充・深化・発展させるための道徳や特別活動等の指導の工夫
- 三 調査、評価部
  - 研究を充実させるための調査の工夫

調査の工夫  
 ○ 研究の成果や課題を明確にするための研究記録の累積と記録の工夫  
 特に、最終年度の来年度に向け、授業の中では「受け」を重視した指導や木刀の使用による基礎的、基本的技能の定着、面の上に風船を付けたり、正確な「払い」ができる電子音が出る竹刀の開発など、教材教具の工夫にも力を

親にも…先生にも…

学校アドバイザー 山本 佑一郎

「ダイヤルSOS」が開設されて二年目を迎えた。今年、専任巡回面接相談員の配置や、「ダイヤルSOS」のフリーダイヤル化など登校拒否やいじめに対しての特別な施策が取られた。しかし、このことは、ことの重大さや深刻さ、さらには、緊急性や切迫性をいかになく表しているものと思われる。

そのフリーダイヤル化によるものとは断言できないが、今年の特徴として、児童生徒からの訴えが大変多くなったことがある。

子供たちからの直接の相談は、受話器を手にしていただけでも精神的、肉体的な苦しみがどこからともなく伝わってくるものである。これらの児童生徒は、決まって、「家の人に話した?」と尋ねると「ウウン」と答え、「先生に話した?」と、問いかけると「話してない」という答えが返ってくる。

誰にも知られたくないから

姿の見えない影の人と…。そこに「ダイヤルSOS」の存在理由があるのかもしれないが、深く傷つき、苦悩している惨めな児童生徒の姿を垣間見るような気がしてならない。やり場のない子供たち。話したくても、話せない子供たち。「先生にだけは言わないでください」「学校には話さないでください」と言う子供たち。にどう応えるか。

日頃からの児童生徒との相互信頼に培われた人間関係の確立、そのことによる何でも話し合える雰囲気作りこそ適切な対応の第一だと思われるのだが…。

私の作品

入れている。また、互いに認め合う生徒の育成のため、礼儀や思いやりの心をはぐくむ「あいさつ運動」の推進などにも地域を挙げて取り組んでいるところである。

俳句「夏色」

北会津中学校生徒作品

新月の夜空に点す螢の灯

一年 星 久美子

梅雨明けを小鳥が詩で宣言す

一年 佐藤 恵一

雨だれが

奏でる屋根のオーケストラ

二年 竹内 咲

汗もとび

せみ声合わせ御神輿だ

二年 奏 恵美子

残暑中秋風ひきつれ稲光り

二年 齋藤有希子

紫陽花の

雨にかすんだ色が好き

二年 渡部安津子

一帯に汗と一緒に滑り込む

三年 鈴木 次郎

夕焼けを

重ねて染めるアキアカネ

三年 渡邊 利行

版画

「そばうち」

山都中学校

一年 河原田洋也



習字

「初志貫徹」

塩川中学校

三年 斎藤健一

初志貫徹

三年 斎藤健一

「南風」

高田小学校

六年 長峯順子

南風

高野小

長峯順子